

ガバナー月信第11号と第12号は、櫻木英一郎ガバナーと5名の委員が忌憚のない座談会を開催した報告文の発表としました。一年間掲載の場を頂き、委員会活動ができましたことに感謝しています。

ロータリー理念研究委員会 海寶 勘一
(千葉西RC)

◇松田泰長 (成田RC)

皆さんは「ロータリー活動とは？」と自問したとき、なにを基にどの様に考えますか？

我々がロータリアンとして何時も接しているものとして、第一標語「超我の奉仕」はロータリアンとしての心の置き方、第二標語「最も奉仕するもの、最も報いられる」は実践倫理として、また「四つのテスト」は常日頃の行動指標として誰もが耳にしています。最近のロータリーの方向性が変わってきたと耳にしますがなぜ問題視されるのでしょうか。それは「変えてはいけないもの」までが変えられつつある事です。昨年10月のRI理事会でロータリアンの行動規範第5項目「事業や職業における得点を、他のロータリアンに求めない」が削除され、今年からグローバルリワードプログラムがスタートしました。世界中の企業に呼びかけロータリアンが利用したときには割引を提供する、提供する側はこの制度による売上アップになる、売上の一部をロータリー財団に寄付してください、と言うものです。100年前のまだ未成熟だった互惠団体に戻ってしまった感さがあります。また4月に開催された規定審議会では大きな採決がなされました。入会金の撤廃、定款の「例会と出席規定」と「会員身分」についてこれらの規定・要件をクラブ細則で定めればそれは定款の規定・要件に優先するなど、クラブの構成と運用はクラブで決めても良いですよ、と変わろうとしています。ロータリーに入会して良かったことをもう一度考えてみましょう。ロータリーは例会を通して、奉仕活動に参加することによって親睦と友情が生まれお互いが刺激し合い自分磨きが出来る場所であり、「ロータリーはひとつづくり」と言われる由来です。この環境を維持し更に磨き上げる事が私たちの使命です。クラブ内で、分区内で、更に地区内でたくさんの意見交換をしてください、地区では今まで以上にそれらの機会を企画しています、自分たちのクラブに最善のスタイルを見つけるチャンスです。決して安易な方向に変化しないように気をつけなければいけません。

◇海寶勘一 (千葉西RC)

ロータリー理念研究委員会の発表は、各委員が関心をもったテーマを研究(勉強)し文章発表してきました。その目的はあくまでも、委員同士が信頼をもって肅々と学び合う切磋琢磨であり向上心そのものでした。当然のこと各クラブへの波及効果の示唆

となることを願い、最終号の記述前に、櫻木ガバナーを交えた座談会で意見交流しました。この一年間、5名の委員が研鑽し学んだ研究発表はロータリーの歴史に沿った基本的な理念にスポットを当て、各自が愚直に発表してきました。委員会が分かち合う共通理念は、真のロータリー精神であり、自己磨きをする為の探究心であり、毎週あるクラブ例会の秩序と品格でした。礼節をもってお互いを思い遣る心がクラブ例会から生まれ、尊敬と敬意をもって信頼できる仲間作りを自負する人が真のロータリアンであると信じます。クラブ管理や奉仕活動に尽力するエネルギーと同様に、常にロータリー精神の涵養を心得て、努力に励む必要が望まれます。真摯になって同じ立ち位置で語りあうロータリアンは、もっともっとロータリーの魅力を掘り起こし、真のロータリー精神を享受すべきです。ロータリーの原点である理念を心得るために、様々なロータリー談義を日常的に行うことも肝心です。気軽にロータリー談義を楽しむ心がけは貴重で価値があります。ロータリー理念はすべてに人間性を高めることに通じ、他人のことを親切に思い遣り、他人のために無欲で尽くせる奉仕活動の実践に力強く花開きます。お互いが職業を矜持し尊敬し合うロータリアンの姿は垂涎されますし、理論と実践、親睦と奉仕の均衡が不易として身に付きます。ロータリーの基本理念である、「超我の奉仕」と「最も良く奉仕をするもの、最も多く報いられる」この二つのテーマを咀嚼し、ロータリアンの指針である「ロータリーの目的」と「四つのテスト」の奉仕理念を御旗としたいものです。ROTARY理念を大切な至宝と自負することから「入りて学び出でて奉仕する」ことができる、品格高く品性豊かなロータリアンを矜持したいものです。



ロータリー理念研究委員会

- | | |
|------|---------------------|
| 委員長 | 海寶勘一 (千葉西) |
| 副委員長 | 平山勝巳 (千葉若潮) |
| 委員 | 大内 啓 (柏南) 島 正彦 (館山) |
| | 松田泰長 (成田) |